

第8回小児がん中央機関アドバイザリーボード会議

# 小児緩和ケアチーム研修会 ～小児がん緩和ケア体制の構築に向けて～

余谷暢之

国立成育医療研究センター

小児がんセンターがん緩和ケア科

[yotani-n@ncchd.go.jp](mailto:yotani-n@ncchd.go.jp)



# 我が国における小児緩和ケア体制

- 2010年 小児医療に携わる医師のための緩和ケア研修会（CLIC）
- 2012年 第2期がん対策推進基本計画  
緩和ケア診療加算、外来緩和ケア管理料に小児加算が追加
- 2013年 小児がん拠点病院選定
- 2017年 国立成育医療研究センターに緩和ケア科設置
- 2018年 緩和ケア診療加算が小児入院管理料の包括範囲外に  
小児がん中央機関：小児緩和ケアチーム研修会開始

# 小児がん拠点病院

成人緩和ケアチームがある

9施設

- 北海道大学病院
- 東北大学病院
- 名古屋大学病院
- 三重大学病院
- 京都府立医科大学附属病院
- 京都大学附属病院
- 大阪市立総合医療センター
- 広島大学病院
- 九州大学病院

成人緩和ケアチームがない

6施設

- 国立成育医療研究センター
- 東京都立小児総合医療センター
- 埼玉県立小児医療センター
- 神奈川県立こども医療センター
- 静岡県立こども病院
- 兵庫県立こども病院

# 成人の緩和ケアチームがある施設

①緩和ケアチームが介入

→介入件数が少ない

②小児科医が緩和ケアチームに入りコラボレーション

→活動頻度が少ない

③小児緩和ケアチームを別途結成し活動

→緩和ケア専門医のコミットメントがない

## 小児科側の障壁

緩和ケアに対して家族が躊躇してしまう	43%
患者のニーズに合った緩和ケアサービスが周りにない	40%
緩和ケアチームに小児患者の緩和ケアに対する知識が不足していると感じる	40%
終末期の話題について話すことが難しい	30%

余谷暢之, 2018年度ホスピス緩和ケア研究振興財団報告書

## 緩和ケアチーム側の障壁

小児患者の緩和ケア介入の経験あり	45%
がん診療連携拠点病院緩和ケアチームの介入患者の中の小児患者割合	0.6%

Yotani N, et al. J Pain Symptom Manage 2018;56:582-587  
2020年度 日本緩和医療学会 緩和ケアチーム登録

# 小児がん診療と緩和ケアチームの協働へ

- 日本緩和医療学会小児緩和ケアWPG

- 緩和ケアチームのための小児緩和ケア教育研修(CLIC-T) (2014-)

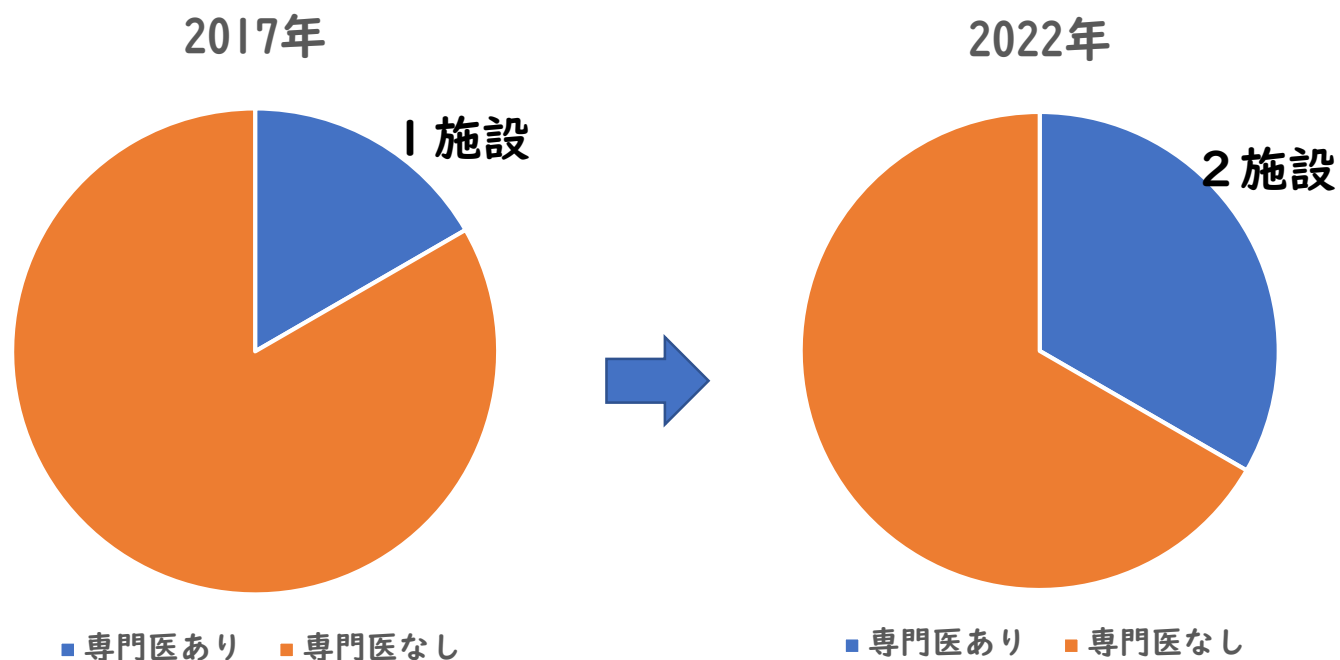
- 緩和ケアチームが小児患者に関わるためのハンドブック作成 (2021)

- 小児がん疼痛ガイドライン

- 小児がん中央機関

- 小児緩和ケアチーム研修会 (2018-)

# 成人緩和ケアチームがない施設 6施設

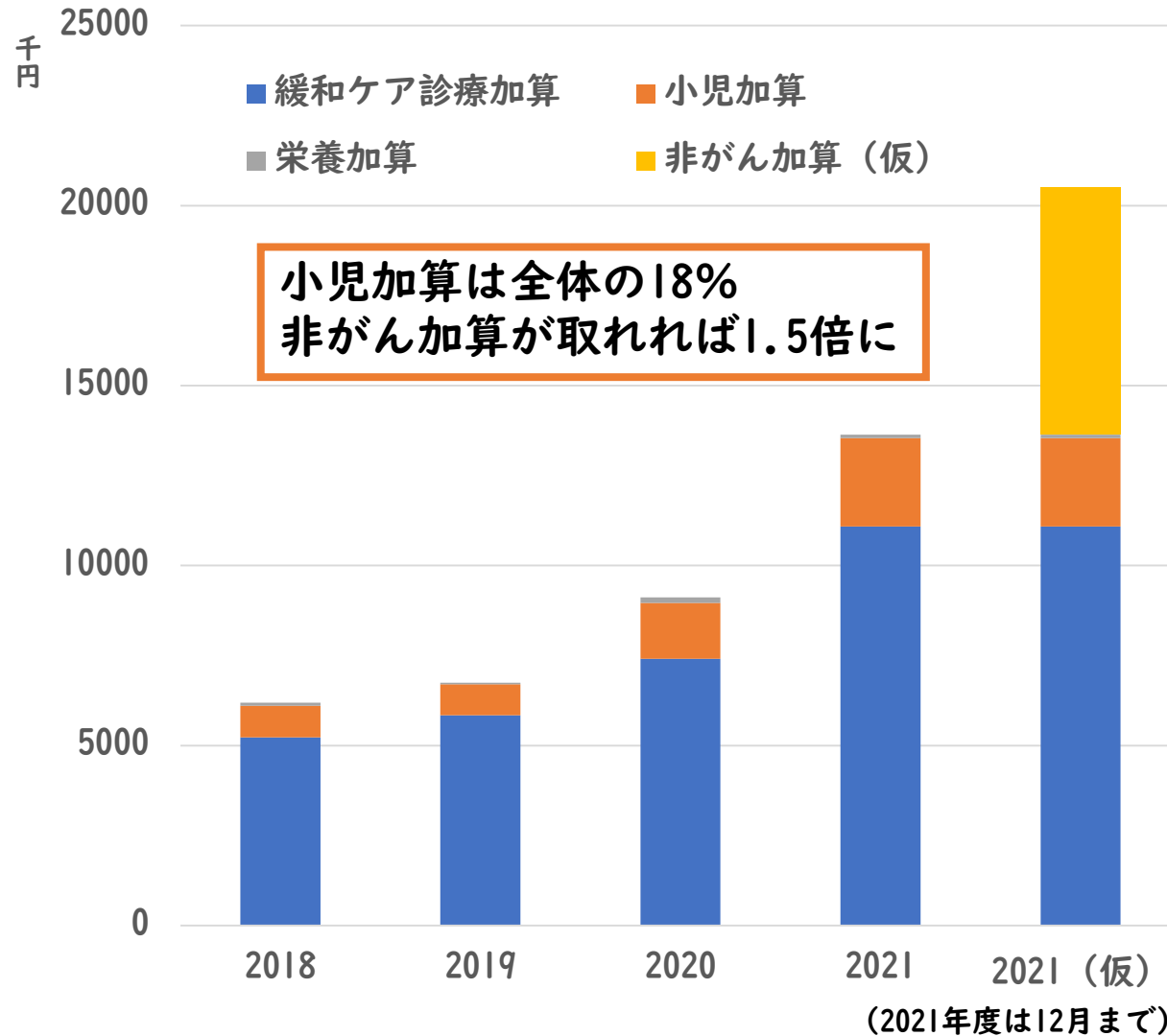


緩和ケア専門医が十分に配置されず  
(2022年度現在2施設のみ)  
専門的緩和ケアを届けるためには  
専門医の存在は不可欠



- ・ 専門医育成の課題
- ・ 他施設の専門医との協働の可能性

# 小児緩和ケアチームの可能性



## 国立成育医療研究センター

### 項目別緩和ケアチーム加算金額推移

- ・ がん患者が介入患者の約50%
- ・ 非がんにも診療加算がつけば  
小児緩和ケアの専門家常勤化の可能性

国立成育医療研究センターは

日本緩和医療学会専門医認定研修施設

人材育成の場に (現在1人が研修中)

2022年4月から増員予定

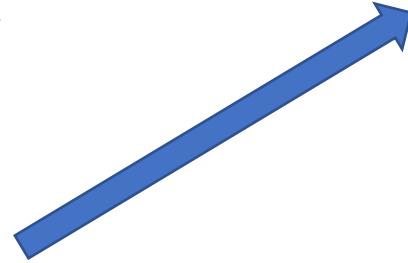


# Webを介した他チームの支援

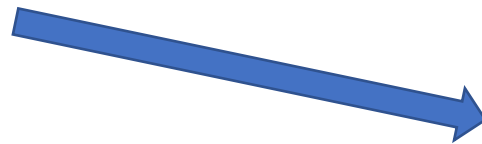
静岡県立こども病院



毎週の緩和ケアカンファレンスに  
Webで参加し助言



隔月の緩和ケア症例検討会に  
Webで参加し助言



都道府県がん診療連携拠点病院との連携



宮城県立こども病院



東北大学病院

# 小児がん中央機関

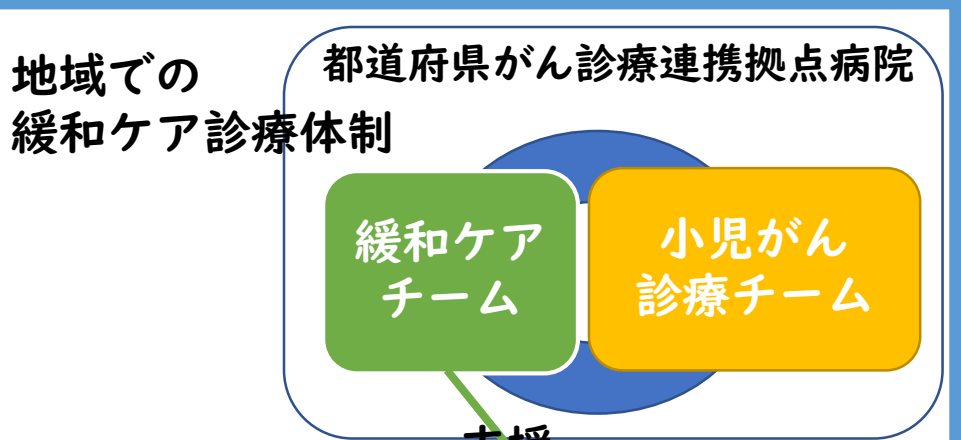
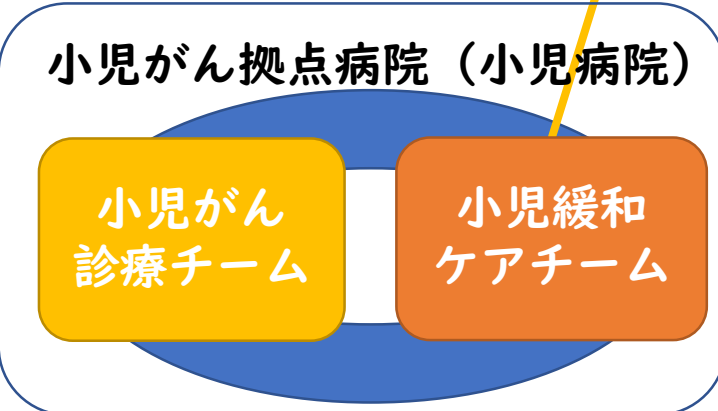


Step 1  
他施設又は同施設の緩和ケア専門医が  
専門医のいない施設を支援できる体制

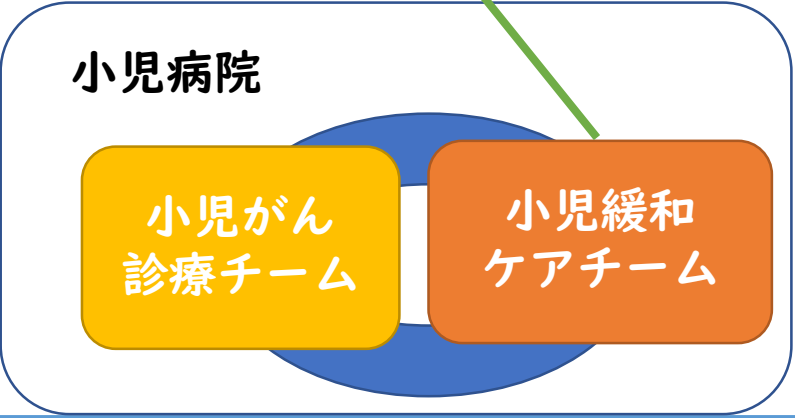
支援

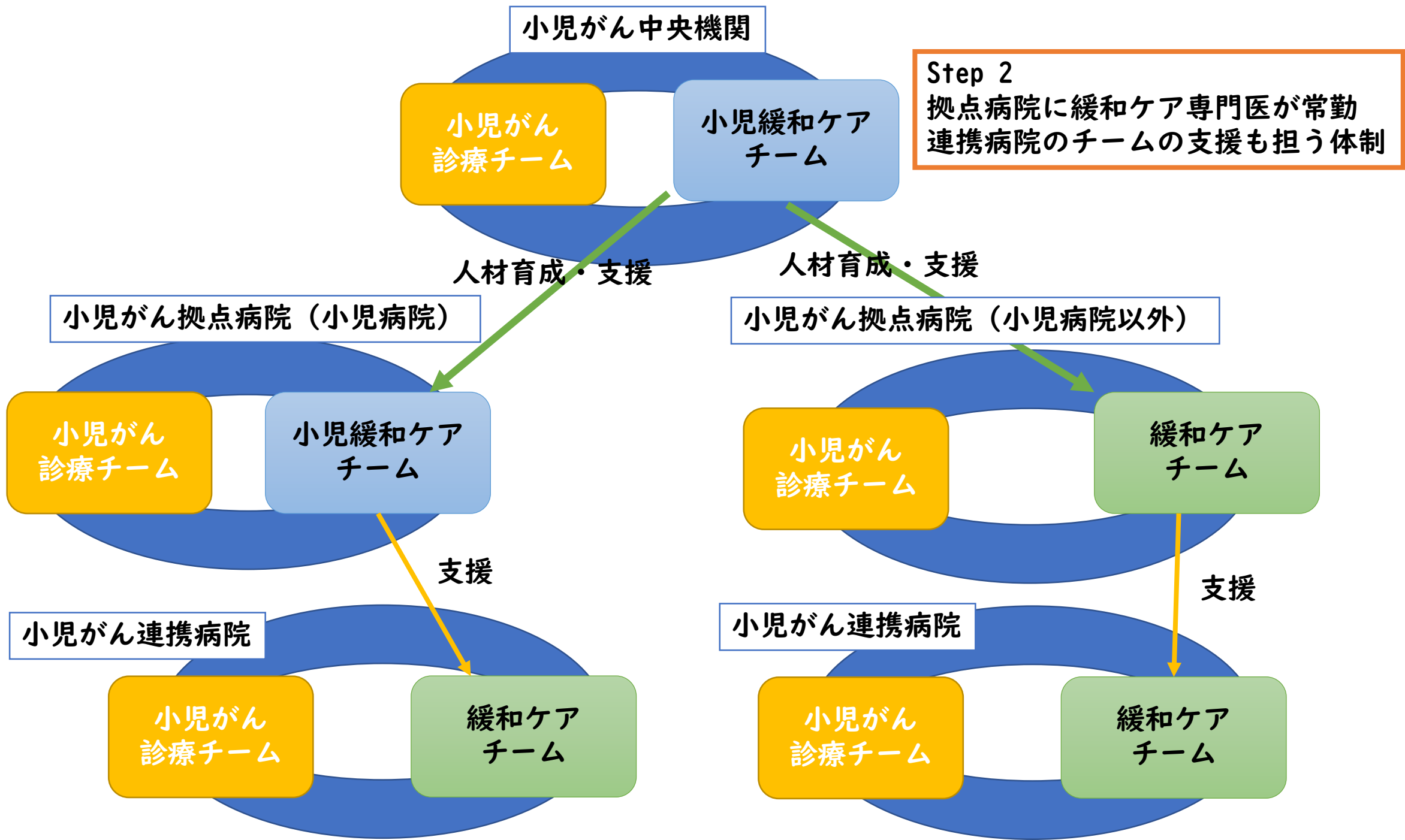


支援



支援





# 小児緩和ケアチーム研修会

- 2018年から開始

2018年度	緩和ケアチーム研修（多職種チーム研修）	51人
2019年度	緩和ケアチーム研修（多職種チーム研修）	91人
2020年度	緩和ケアチーム研修（多職種チーム研修）	104人

- 研修会の目的

- 専門的小児緩和ケア診療のスキルを上げる
- 小児緩和ケアのつながりを作る
- 現状把握とこれからの取り組みについて考える

# 2021年度 小児緩和ケアチーム研修

- グループワーク

「緩和ケアチーム内で解決できない課題にどのように対応するか」

→似たような課題を持つチーム同士の情報交流の場

- 症例検討

「消化器症状について考える」

→症例検討を通じて緩和ケアの考え方、こどもの特徴を学ぶ